

全 体 構 想

第 2 章

まちづくりの将来像

第1節 まちづくりの基本理念と基本目標

「桑折町総合計画」(2021(令和3)年9月)に掲げる将来像と基本方針、本計画の課題等を踏まえ、まちづくりの基本理念と基本目標を設定しました。

1. まちづくりの基本理念

これまでの計画は、東日本大震災からの復興や、桑折町に暮らしているみなさんが豊かに楽しくそして快適に生活し、さらに来訪者をもてなすことで、「こんなまちに住んでみたいな!」と思えるまちづくりの実現を目指すものでした。

復興に関する施策は一定の成果を収めました。町をとりまく社会情勢の変化等を踏まえれば、今後は豊かな地域資源を守り、活かし、将来に渡って町民みんなが「いつまでも住み続けたい」と思えるまちづくりをさらに重点的に進めることが重要です。

町総合計画では、本町の恵まれた地域資源を最大限活かしながら魅力的なまちづくりを推進する姿を「町の将来像」として掲げています。

近年、人口減少・少子高齢化の進展によって地域経済の衰退などが全国的に懸念されています。そのようななか、かつて奥州・羽州街道の交通の要衝として栄えた本町に、東北中央自動車道(相馬福島道路)及び伊達桑折ICが開通し、地理的ポテンシャルが高まっています。これは「こおりならでは」の優位性を担保するものであり、本町の恵まれた地域資源と合わせて積極的に活用することが求められています。

また、町が将来にわたり持続的な発展を遂げるためには、桑折町民特有の誇りある町民性の継承と育成が重要であり、これらを推進することで多様な人材育成や交流促進につながり、「こおりならでは」の地方創生に一層磨きをかけることができます。そして、交流人口・関係人口の増加と地域への誇りと愛着を浸透させることは地域社会の持続性を高めることとなります。

ソフト面とハード面双方による「こおりならでは」のまちづくりを進めることによってさらに魅力的な桑折町に発展させるため、基本理念を以下のように定めました。

『愛着と誇り(桑折プライド)を育む

住み続けたいまち 住みたいまち

こおりならではのまちづくり』

2. まちづくりの基本目標

まちづくりに向けた課題等を踏まえて、まちづくりを進めていく基本目標を次のように定めました。

① 広域交通網などの地域特性や地域資源を活かした戦略的なまちづくり

【土地利用・道路・交通】

活力と賑わいに満ちたまちの実現に向け、東北中央自動車道（相馬福島道路）伊達桑折 I C のポテンシャルを活かし、充実した交通インフラによる地域・都市間の連携と、中心市街地の再生や地域資源を活かした戦略的なまちづくりを進めます。

また、町総合計画「グランドデザイン」に即した機能集約により機能を効率化したコンパクトな土地利用を推進します。

② 安全・安心な災害に強い強靱なまちづくり【防災】

東日本大震災の教訓を活かした総合的な都市の防災・減災対策をはじめ、防災拠点や防災基盤の強化、伊達桑折 I C 開通を契機とした広域防災の連携強化、「自助・公助・共助」の考えに基づいた関係機関や住民、住民自治組織等と連携した災害対応力の強化など、安全・安心な災害に強い強靱なまちづくりを進めます。

③ 子どもからお年寄りまで、笑顔で住み続けられるまちづくり【住環境・福祉・子育て】

人口減少や本格的な少子高齢社会に対応し、身近な生活基盤及び都市機能の充実をはじめ、移住・定住促進につながる快適な住環境の確保、医療・福祉や子育て環境の充実を図り、穏やかで心豊かに暮らせる、子どもからお年寄りまで笑顔で住み続けられるまちづくりを進めます。

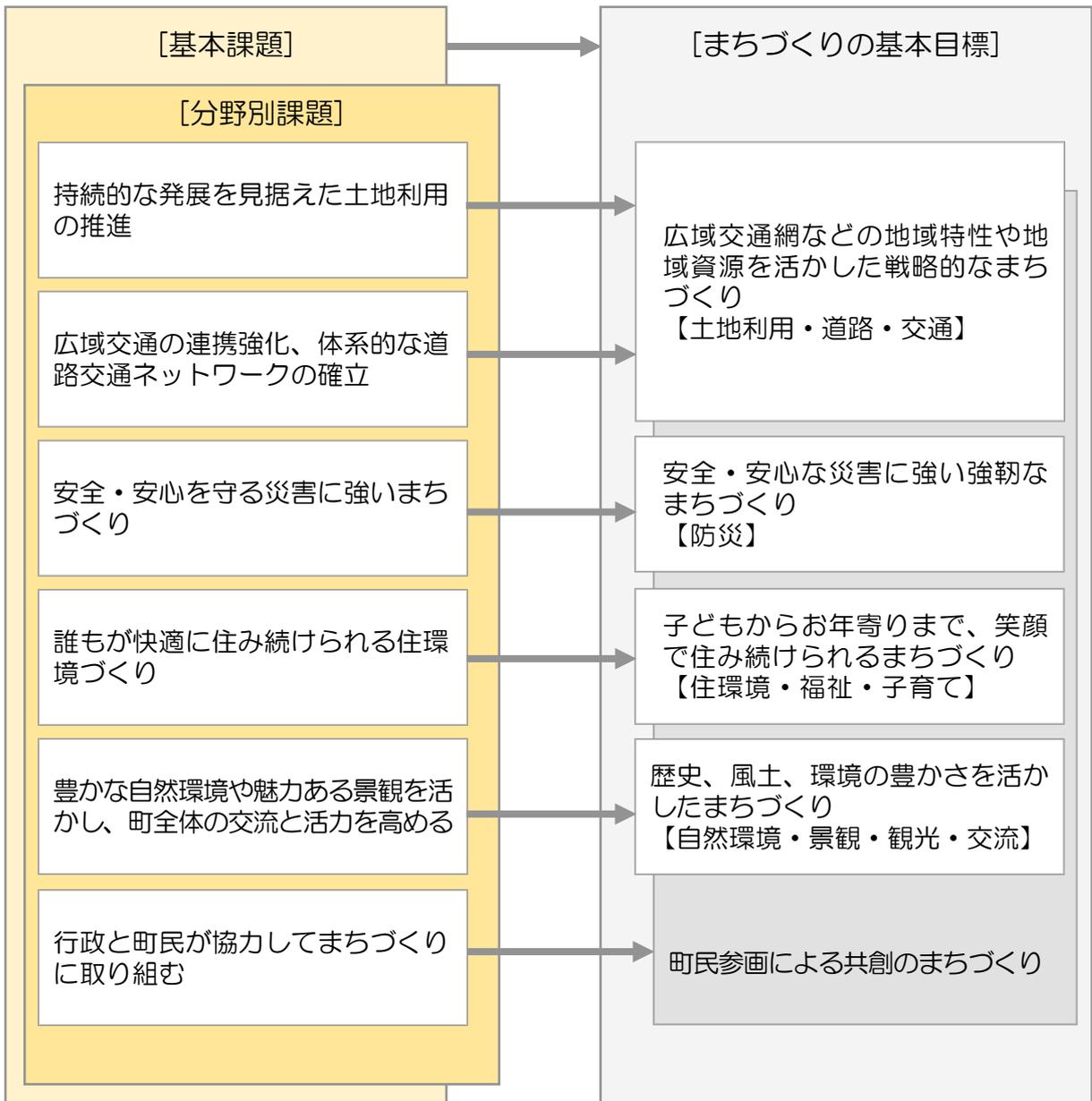
④ 歴史、風土、環境の豊かさを活かしたまちづくり【自然環境・景観・観光・交流】

町の誇り・宝である豊かな自然や歴史・文化を次世代に継承しながら、桃畑が広がる「こおり桃源郷」と都市機能が共生する樹園都市としての魅力発信や地場産業を観光・景観資源として活かすことにより、交流人口・関係人口の拡大と地域振興に寄与する歴史、風土、環境の豊かさを活かしたまちづくりを進めます。

⑤ 町民参画による共創のまちづくり【共創】

まちづくりは、公共施設・都市基盤の整備や維持管理、既存ストックの有効活用はもとより、町民が主体となって行政や各種団体等と連携し、まちの魅力や地域の価値を共に創りあげていくことが重要です。そのため、地域づくりにおける住民活動を尊重し、それぞれの力を活かしながら交流を広げていく、町民参画による共創のまちづくりを進めます。（この目標は、各施策全体に関わるものであり、詳細は「第5章 実現化方策」に記載します。）

■まちづくりに向けた課題とまちづくりの基本目標



第2節 目標人口

桑折町は、1990（平成2）年をピークに人口減少が進み、この傾向が続くと2060（令和42）年には6,000人を下回るまで減少すると推計されています。

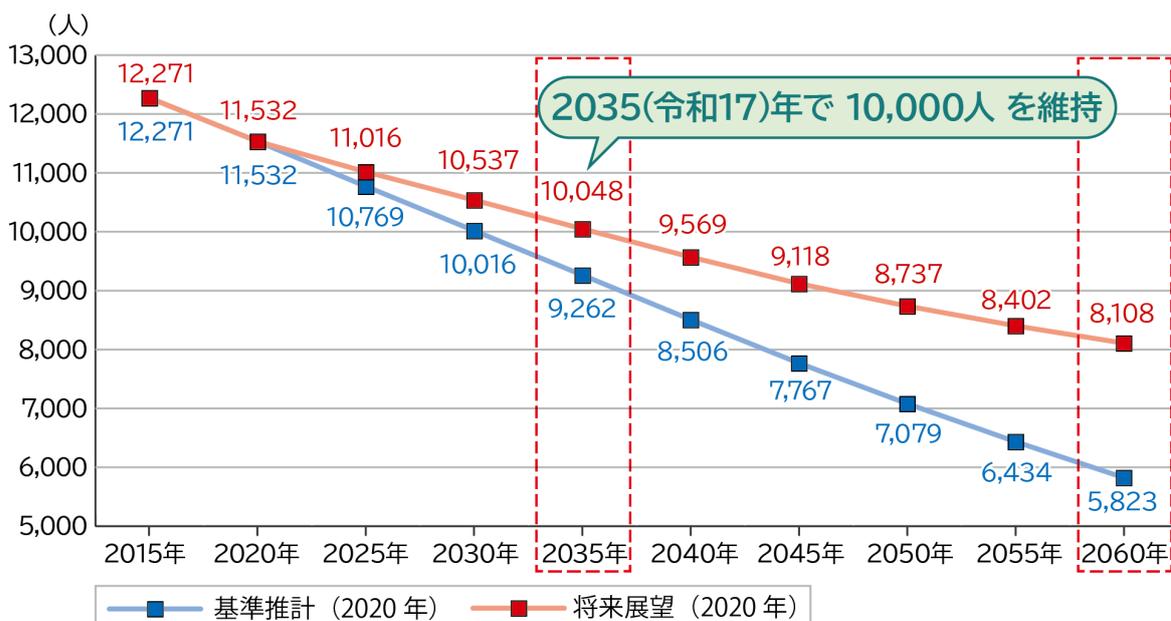
「桑折町総合計画」では、本町が目指す将来像に係る自然減少・社会減少対策を講じ、2035（令和17）年に人口10,000人を維持することを目標としています。

本計画の目標人口についても、総合計画の方針に沿って

2035（令和17）年に **人口 10,000人** 維持を目指します。

また、目標人口を達成するため、町民の希望出生率「2.07」や若年層の「社会増減±0人」などのシミュレーション条件の達成につながる各種施策に取り組むことで、急激な人口減少に歯止めをかけ、地域社会の持続性を高めます。

■目標人口



出典：「桑折町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン《令和3年版》」

人口の将来展望で見据えた人口を達成するために、シミュレーション条件①（自然動態）とシミュレーション条件②（社会動態）の達成を目指します。

- ①【自然動態】2030年（令和12年）に町民の希望出生率「2.07」：2019年（令和元年）に実施した町民アンケート調査の結果から算出された希望出生率の達成を目指す。
- ②【社会動態】2030年（令和12年）に若年層の「社会増減±0（ゼロ）人」：2021年以降は、移住・定住施策や伊達桑折インターチェンジ周辺および福島蚕糸跡地の再開発などの地域活性化施策の効果により、2030年までに若年層の社会増減を段階的に±0人にする。

出典：「桑折町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン《令和3年版》」

第3節 桑折町の将来都市構造

1. 将来の都市構造形成の基本的な考え方

人口減少や少子高齢化が進行することで、主要産業である農業や製造業の縮退など経済規模が縮小するほか、商業などの各種民間サービス、行政サービスの低下、人と人のつながりの希薄化やコミュニティの衰退など様々なことが懸念されます。そのため、地域の生産性向上や減少する定住人口を人材育成や交流促進により補完する各種対策を講じることが重要になります。

この社会情勢の変化に的確に対応するため、町総合計画では、本町にしかない豊富な地域資源を有効活用し、町の魅力を一層高めながら、地域社会の持続性を高める「こおりならでは」の地方創生を推進した姿として「グランドデザイン（将来の桑折町）」を示しました。

本計画においても、この「グランドデザイン」に即した機能集約を進めるとともに、都市と自然の調和を維持することを都市構造形成の基本とします。

町民の生活と町外から訪れる人々の活動を支える拠点・軸と伊達桑折IC周辺のポテンシャルの高まりを活用する新たな拠点が相互に連携することにより、機能を効率化したコンパクトで地域社会の持続性を高めるまちづくりを目指します。

<参考>町総合計画：献上桃の郷こおり未来躍動プランの将来像



2. 将来都市構造の形成方針

将来の都市構造の形成方針を、「土地利用エリア」「都市の拠点」「都市の軸」に関する方針として示します。

■将来の都市構造形成の方針

区分	小区分	形成方針等	
① 土地利用エリア 地域の特性に応じた適正な土地利用を推進します。	 都市構想エリア	都市機能の集積・誘導を図るエリア：市街化区域、伊達桑折IC周辺など	
	 農地・集落エリア	農地の保全・活用と集落環境の向上を図るエリア：主に市街化調整区域	
	 森林エリア	豊かな森林環境の保全・活用を図るエリア：主に都市計画区域外	
② 都市の拠点 都市の魅力と活力を高める拠点の機能強化を図ります。	 中心拠点	商業・業務機能、歴史・文化、教育、行政等の都市機能の集積を図る中心市街地	
	 地域生活拠点	日常生活に必要な都市機能の集積を図る地域の拠点：旧町村地域の中心部（市街化調整区域の小学校周辺）	
	 工業拠点	工業・流通業務機能の維持・向上を図る拠点：桑折工業団地	
	 複合機能創出拠点	伊達桑折ICの交通利便性を活かして、流通や地域振興など多様な機能立地を目指す拠点：伊達桑折IC北側一帯	
	 緑の拠点	豊かな自然の保全・活用と交流機能の強化を図る拠点：半田山自然公園、桑折西山城跡、こおり桃源郷	
③ 都市の軸 都市の交流を支える交通・連携軸の強化を図ります。	 広域高速交通軸	広域的な都市間交流を促進する交通軸：東北自動車道、東北中央自動車道（相馬福島道路）	
	 広域都市軸	広域連携の主軸となる交通軸：国道4号	
	  地域連携軸	地域連携軸	拠点間を結び、周辺市町との連携を支える交通軸：（一）国見・福島線、（一）飯坂・桑折線、（一）保原・伊達崎・桑折線など
	 水辺骨格軸	水辺骨格軸	河川親水空間の骨格軸：阿武隈川

■将来都市構造図



【土地利用エリア】	【都市の拠点】	【都市の軸】	【その他】
都市構想エリア	中心拠点	広域高速交通軸	自動車専用道路
農地・集落エリア	地域生活拠点	広域都市軸	幹線道路
森林エリア	工業拠点	地域連携軸 (都市間連携)	幹線道路 (計画ルート)
	複合機能創出拠点	地域連携軸 (拠点間連携)	鉄道・駅
	緑の拠点	中心拠点軸	交通結節点
		水辺骨格軸	河川・水路・湖沼
			行政界
			都市計画区域界
			地域界

